

4年 国語科研究授業のまとめ（6月26日）

1 単元名及び単元の目標

広告と説明書を読みくらべよう（7／8本時）

◎ 目的による表し方の違いや述べ方の工夫を読み取る。

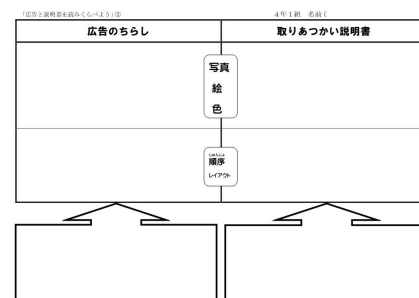
2 本研究授業の提案について

広告と説明書における表し方などの違いは、伝える相手や目的の違いによることを読み取らせるために、次の二つについて提案を行った。

(1) 自分の考えを深めさせるために、小グループやクラス全体での意見交流を行った。

小グループは3人一組とし、ワークシートを互いに見合いながら話し合いができるように、立って行わせた。そして話し合いが終わったグループから座らせた。また全体での意見交流では、広告や説明書のどの部分からそう考えたのかを、拡大した広告等を実際に指し示しながら発表させた。その結果、それぞれの考えの根拠が明確になり、意見をよく理解することができていた。従って、意見交流の方法としては有効だったと考える。しかし、それを生かして自分の考えに付け加えたり互いに深め合ったりするところまでは、時間的にできなかった。これは本時の導入において、前時までの振り返りに時間をかけ過ぎたことが原因である。友達の意見を聞きながらワークシートに書き加えていく習慣をつけると同時に、再考の時間をしっかり確保することも大切であると感じた。

(2) 広告と説明書の違いについて、前時までに様々な観点でワークシートにまとめる学習をしてきた。本時では違いを再確認し、それがどんな願い（目的）で作られたのかを考えさせた。前時と本時の学習内容を一枚のワークシートにしたことで、児童は思考の流れを途切れさせることなく、考えをまとめることができていた（図1参照）。意見交流の際も、考えの基になった部分（違い）とねがいがひと目見て分かる形式になっていたのも、交流しやすかったと考えられる。また、板書とワークシートの形式をそろえたことで、考えをまとめることが難しかった児童も、後から書き込むことができていた。以上のことから、今回のワークシートは、特に前時の学習内容を根拠として児童が考えをまとめるという流れの授業では有効だったと考えられる。



【図1・児童のワークシート】

3 本研究授業の授業技術課題について

今回の研究授業では、発問の精選に取り組んだ。これは、一つの発問をした後に、別な言葉で言い直したり補足したりすることで、かえって考える視点が不明確になり児童に混乱をきたすことが多かったという、自身の反省に基づいたものである。本時では、広告と説明書がそれぞれどんな目的で作られたかを考えることがねらいだった。そこで「目的」という言葉を「ねがい」と言い換えるとともに、表現は「～したい」「～してもらいたい」「～してほしい」という形をとるように明示した。その結果、児童はどのように答えたら良いか考えやすくなり、ワークシートにしっかり書き込むことができていた。改めて、精選された発問の重要性を感じた。

4 次回の研究授業へ向けて

以上のことから、次の点の改善を図りながら授業の展開を考えていきたい。

- ・前時までの学習内容を効果的にまとめたり振り返ったりするための工夫。
- ・児童の思考の深まりや新たな学びを促すための、授業展開の工夫。